

MINI MINIMINI MINES

第1回 鉱業博物館開放講座

ファラデーに魅せられて (3)

ファラデーの自己研鑽と研究流儀

日時：平成28年7月7日(木) 15:00~16:00

講師：秋田大学名誉教授 金児 紘征 氏

平成28年7月7日(木)、平成28年度第1回 鉱業博物館開放講座が開催されました。講師は、秋田大学名誉教授の金児紘征先生でした。

今回の講演は、平成26年1月に行われた講座「ファラデーに魅せられて(2)「電気分解の法則—ファラデーの原論文を読み解く—」の続編として講演されました。講座では、ファラデーの研究に対する態度、流儀について取り上げられました。

マイケル・ファラデーは電気分解の法則、電磁誘導の法則など、電気に関するいろいろな現象を発見をしたイギリス人科学者です。ファラデーは「自ら学ぶ」「自ら点検する」「自ら改善する」ことが重要と考えていました。これは、他人の意見に惑わされず、自分がしたことが間違っていないかチェックし、自主的に継続的に改善するということです。具体的例としては、電量計による電気分解の第1法則の検証の際に、実験容器によって実験結果が影響されないかをあらかじめ確かめたり、できるだけ多くの化学物質で電気分解性を調べたりしたことが挙げられます。講演の最後に金児先生は、ファラデーの自己研鑽の努力と特徴的な研究流儀から我々が学ぶべきことは多い、と語られました。



講演する金児先生



聴講する参加者の皆さん

第2回 鉱業博物館サイエンスボランティア講習会 を開催しました



講師を務めた西川先生



黒鉱について説明中



講習を受けるSVの皆さん

平成28年6月16日(木)、平成28年度第2回の 鉱業博物館サイエンスボランティア(以下、SV)講習会が開催されました。

今回は国際資源学研究所の西川治先生を講師として、館内案内についての講習を行いました。

はじめに、当館が昭和36(1961)年に開館してから現在に至るまでの歩みについての話があり、続いて、当館1階中央スペースに展示されている「硬質泥岩」「黒鉱」「ナウマンヤマモモ」についての説明がありました。これらの石は、5月10日、日本地質学会が全国47都道府県の「県の石」を選定した際、秋田県の石として選定されたものです。講習会では、選定された理由や特徴について解説を行いました。その後、1階の鉱石、2階の岩石コーナーの展示物について、見学者を案内することを念頭においた説明がありました。

西川講師は、この博物館の特徴は、日本国内の鉱山産の鉱石にあり、非常に貴重なコレクションである、とまとめました。

SVの皆さんは、館内の案内をさらに充実させようと、熱心に講習を受けていました。

お知らせ

フリーペーパー a-UN vol.37 に
鉱業博物館の記事が掲載されました

フリーペーパー a-UN[あ・うん] vol.37(2016年7月号)に「ザ・鉱業博物館コレクション」と題して、当館を紹介する記事が2ページにわたり掲載されています。

このフリーペーパーは、主に道の駅で配布していま

表紙を飾っています！



8月は毎日開館しております
ご来館お待ちしております！



第3回 鉱業博物館サイエンスボランティア講習会 を開催しました

平成28年7月5日(火)、平成28年度第3回の鉱業博物館サイエンスボランティア(以下、SV)講習会が当館講堂で開催されました。今回は嶋田智恵子国際資源学研究所研究員が担当し、展示棟2階の化石コーナーについての説明が行われました。

物館に送られてきて、塩素漂白剤を使って洗浄されたそうです。この標本の本体は国立科学博物館に展示されており、その一部分を当館で展示しているという、標本の入手から展示までの流れの話がありました。

地球生命史コーナーについては、日本、特に北海道はアンモナイトの世界的産地であり、当館のアンモナイトのコレクションは東日本有数である、と話されました。

また、最近の話題として、福井県勝山市で見つかった新種とみられるほ乳類の骨格化石についての話題にも触れられました。参加したSVの皆さんから多くの質問もあり、活気あふれる講習会となりました。



講師を務めた嶋田先生



講習会の様子

化石コーナーは、秋田県古環境変遷コーナー、環境や時代を指標する化石コーナー、地球生命史一般のコーナーの3つのコーナーに分けられます。講習会では、それぞれのコーナーの見どころについての詳しい解説がありました。環境を指標するコーナーについては、ポリテス(サンゴ化石)が取り上げられました。この標本は石垣島から国立科学博



アンモナイトが並ぶ地球生命史のコーナー



質疑応答の様子

鉱業博物館誕生 ~建設から完成まで~

平成28年6月17日(金)、鉱業博物館の建設に携わった尾口良男さんが来館されました。当時、尾口さんは1年3か月ほど住み込んで建設に携わり、博物館は特に思い出に残る仕事だったそうです。もう一度建物を見たいという思いからお越しになり、当時の事を思い出しながら、感慨深げに館内をご覧になっていました。

尾口さんからは、博物館建設中や完成時の写真のほか、開館時に掲載された新聞記事をお借りしました。大変貴重な資料ですので、尾口さんのお話を織り交ぜながら皆さんにご紹介します。



建設前の様子

右上に「鉱業博物館建設用地」と書かれた看板が建っています坂の上り口からの撮影



建設途中の様子

高台のため、資材の運搬が大変だったそうです



建設途中の様子

円形の建物が形作られていきます

鉱業博物館の建設

鉱業博物館は、昭和35(1960)年9月2日に起工式を行い、昭和36(1961)年9月30日に完成、翌日10月1日に開館しました。秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校が設立されてから、ちょうど50周年にあたる年でした。



開館当初の新聞記事

(秋田魁新報 昭和36年11月17日付け)

豪華で設計がモダンと建物を紹介し、「日本で唯一の鉱業博物館で、内容が充実すれば国際級」と説明した加賀谷文治郎初代館長のコメントが載っています



完成時の館内ロビー天井の施工は難儀だったそうです



建設風景

農繁期は人手不足になるため、学生に手助けしてもらっていました